

<週報No. 2, 908> 3, 019 回例会

2020年1月10日(金)

■会長／玉本 広人 ■幹事／山田 文雄

◆司会＝八幡一成SAA

◆ゲストビジター＝本日はいらっしやいません。

◆出席報告

本日	64.58%	17名欠席
前回訂正	87.23%	7名欠席

◆ラッキーナンバー＝No.4 玉本広人君 No.8 宮坂康弘君 No.10 秋山晶子君 No.13 佐藤忠士君 No.25 菊池俊樹君

◆ニコニコボックス＝●玉本広人君、山田文雄君＝皆様、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈いします。本日の例会、年男・年女の皆様よろしくお祈いします。●太田信男君・折井俊美君＝新年あけましておめでとうございます。●小口武男君＝新年おめでとうございます。3月のIMは特によろしくお祈いします。●早出由男君＝新年おめでとうございます。今年も良い年でありますように。●増沢洋太郎君＝あけましておめでとうございます。1月31日職業奉仕担当例会です。宜しくお祈いします。●古屋了君＝本年、年男だそうです。よろしくお祈いいたします。●山本實君・宮坂直孝君＝令和2年明けましてお目出とうございます。国際奉仕委員会の例会は2月7日でございます。本年も皆様宜しくお祈い申し上げます。●石田孝一君＝明けましておめでとうございます。本年も宜しくお祈い致します。●宮坂康弘君＝結婚記念日に花束を頂き有難うございました。忘年例会ではまぐれのパッティングで場を荒らして失礼しました。●小平直史君・河田康幸君＝クリスマス例会、ありがとうございました。●玉本広人君・宮坂康弘君・秋山晶子君・佐藤忠士君・菊池俊樹君＝ラッキーNoにあたって。

◆会長告知・玉本広人会長＝皆さん、あけましておめでとうございます。昨年7月より皆様のご協力により滞りなく半期を送ることができました。そして年末の忘年例会では、親睦委員会の皆さんの企画で大変盛り上がり、楽しく和やかに半期を締めくくることができました。あらためて感謝申し上げます。

3が日は大変穏やかな日となりましたが、皆さまはどのようにお過ごしだったでしょうか？

私は元旦6時半から初仕事で旅館周りの集配をし、途中見事な初日の出を諏訪湖大橋近くで拝むことができました。その後、区の役員として消防第5分団のはしご乗りの接待で公民館にいき「令和2年玉本家異常なし！」と梯子上から安全祈願をしていただきました。長男も梯子の乗り手でかなりの大技を決めておりまして、私も25年ほど前は、梯子に乗っていたのですが、さすがにもう怖くて乗る気にはなりません。お昼頃上社と産土様に初詣に行き、昨年のご加護にお礼を申し上げ、改めて今年一年の弥栄を祈念してまいりました。本年が、三が日のような穏やかな一年となることを祈っております。

2020年令和2年は庚子(かのえ・ね)の年です。「庚」は「杵を両手で持ち上げる象形または、植物の生長が止まって新たな形に変化しようとする象形」とされています。

関西師友協会の河西善三郎氏によれば、庚の原初の意味は杵を執って臼で穀物をつくり形と考えられることです。穀物をつくるには、繰り返しつき続けなければなりません。そしてつけば穀物は変化します。また唐の五経のひとつ「礼記(らいき)では「庚」を「償う」の意味で用いています。「庚」には、継ぐ、償う、更新の更と書いて更(かえ)るの三つの意味があるということです。

次に「子」は完了の「了」と「一」との組み合わせで、「終わり」と「始まり」を意味します。また新しい生命がぎざし始め植物の種子が芽ぶき、次々と出始める様子でもあります。「庚子」の年は、新たな局面の展開を覚悟し、継続すべきこと更(かえ)るべきものを見極め、因習を打破し、継続すべきものは、思い切って新しい局面や環境に対応すべく更新、進化させて行く年となります。

ロータリーにおいては、大きなものとしてIMが3月に行われます。小口ガバナー補佐、河西実行委員長のもと今までの流れを変えたIMになろうかと思えます。諏訪クラブ一丸となって成功させましょう。今期は新入会員がまだ1名という事で、目標の50名になかなか届かない状態です。またローターアクトもなかなかメンバーが増えない中、活発な活動もままならず次期の地区ホストに向けて不安な状況です。候補者の紹介等ご支援をお願いいたします。

各委員会毎に、是非新年会等で懇親を深めていただき、残り半期、皆でロータリーを楽しんでいきましょう。

忘年例会で獲得した宝くじは、今季終わるまで開封しませんので、万が一当たったら皆で盛大に打ち上げをいたしましょう！

◆**幹事報告・山田文雄幹事**＝新年あけましておめでとうございます。皆様には輝かしい新年を迎えられたとお慶び申し上げます。今日の例会につきましては、年男年女の年頭挨拶を行います。3名の予定でしたが、小島拓也君が中国出張のため、お二人で15分ずつお願い致します。1月のロータリーレートは円安に振れまして\$1が110円です。岩波寿亮会長エレクトにポールハリスフェローの認定状が届いており、後程贈呈セレモニーを行います。毎年なのですが、ユネスコの書き損じはがき回収運動に協力していますが、ここ2年は全く集まっていませんでした。今日は私が持ってきました。書き損じ年賀状などは入り口に専用の袋を用意してありますのでそちらにお願い致します。プライバシーは保護致します。第9回定例理事会は短時間だけ行います。



◆**新年例会：年頭挨拶・秋山晶子会員**＝皆様、あけましておめでとうございます。何回目かの年女は別としてお話をさせていただきます。年末年始はベトナムに旅行に行ってきました。ハノイに一泊し世界遺産のハロン湾をクルーズしながら船中泊し、リゾート地のダナンで2泊し帰国しました。RC会員の中にはベトナムの工場を有している方も多く、お聞きした通り活気があり、バイクが多いのが印象でした。ベトナムでは3秒に一回の割合でクラクションが鳴り、道を渡るのにも一苦労でした。インターネットでお宿の集客のお手伝いをしているため、日本国内に生かせるアイデアを求めて結構海外旅行にも出掛けています。ベトナムの麺料理ではフォーが有名です。ブンチャーという麺料理も日本のそうめんのように美味しかったです。茹でた麺がお皿に、温かいつけ汁が大きめのどんぶり、更に別の皿にハーブがてんこ盛りで提供されます。レモングラスや日本ではお目にかからないような名前も知らな

いハーブが印象に残りました。日本のそうめんにもわさびやゆず、ショウガなどを山盛りにして熱い汁と食べたら良いと思いました。ダナンからホイアンに出掛けました。ホイアンは世界遺産の町で、色とりどりのランタンを町中に灯して川に流すことを毎日行っています。ぼんぼりの様な小さなランタンを皆で毎日やり続けることにより世界でも有名な町になれたことにびっくりしています。色んなアイデアを日本にも生かせないかと考えて帰国しました。

インターネット予約の仕事をしていますので、いつもはお宿様の立場で考えていますが、ユーザー目線でのお得なインターネット予約の裏話をします。年末年始の予約を12月に入ってからしても、行きたい宿はどこもいっぱい苦勞しますが、空室が激増する瞬間が2回あります。ぬのはんさんみたいな人気の旅館はなかなか空室は出て来ないと思いますが、旅行代理店が扱う中～大規模な旅館では部屋を預けて販売しています。第一の瞬間は14日前で、旅行代理店から客室が戻って来るので、HPで空室をチェックしてみてください。チャンスを逃がした人は大体5日前に再挑戦して下さい。ユーザーの流れとして本命の宿を二か所くらい押さえておき、キャンセル料に係るのが宿泊4日前のため、5日前に一か所をキャンセルする風潮があります。この瞬間に客室が戻ってネットに出て来ます。14日前と5日前をチェックして頂けると、次のGW・年末年始に良いお宿がもしかしたら安くやり取り出来るのではと思います。良い宿を見分けるポイントとしてはロコミを参考にしますが、ロコミと実際の違いを感じる方が多くいらっしゃいます。ネットでの書き込みは関係者も出来るため、ロコミが本物なのか見極めることが大切です。ロコミは総合1～5点で決まっています。最も怪しいのは総合が5点が多く、1～2点も多い両極端な場合は怪しい宿となり、絶対に予約してはいけない宿となります。5点が200もあるような奇跡な宿は滅多にありません。お勧めは5点が多く、4点もそこそこあれば怪しいロコミが混ざっている可能性が低いと判断でき、400件以上のロコミがあつて平均4.5点で、5点の中に4点も多少混じっているのが良い宿です。総合点以外に項目別で食事・接客・清潔感があります。古い施設では点数が下がるのは仕方ないですが、それをカバー出来る評価の宿は興味が湧いて泊ってみたくなります。



・古屋 了会員＝お子さんやお孫さんをお風呂に漬ける時、100までの数字を教えながら、出たがる子どもに数を教える教えられるという経験は多くの方がお持ちだと思います。私の場合は59の次が教えられません。年男のあいさつをご依頼いただき「お、還暦だ…」と…。大事な節目を迎える心構えのなかったことを些か慌ております。お茶を濁すような話ですが、しばらくおつきあいください。

この元旦はローマのバチカンで迎えました。今年からは身边がガタつきそうなので、行けるうちにと妻と6年ぶりのヨーロッパでした。年越しをイタリアでしたのには目的がありました、我々は景勝地や観光地に興味の薄いことありますが、今回の目的もローマ在住のある方に会うことでした。

バチカン訪問は偶然の流れですが、その日、我々がサンピエトロ広場を後にした直後、フランシスコ教皇が人々の前に現れたというのをテレビニュースで知りまして、昨年東京ドームのミサで日本の青年に語ったメッセージに共感を覚えてもおりましたので、このニアミスはちょっと残念でした。



さて、翌日帰国して見た箱根駅伝は、創価大学米満選

手の歴代2位の区間賞で幕を開けました。7区間で区間新が続出するという超高速レースで、創価大学と東京国際大学が初のシード権を獲得しましたが、常連校の監督たちは「今までのやり方では通用しない」と口をそろえているようです。100周年の節目を迎えようとしている箱根駅伝も、新時代に突入したようです。

その中で、青山学院大学は2年ぶりに王座を奪還しました。スポーツ紙の解説者は青学の勝因を、原監督による選手の区間配置が「他の監督とは逆の発想だった」と指摘しています。ふつうは「どの区間にどの選手を当てはめるか」考えるようですが、原監督は選手の努力をよく観察した上で「彼はどの区間なら輝けるか」と考えていた、というのです。花の2区に1年生、復路に初出場メンバーの4人を抜擢するなど、まさに“発想の転換がもたらした勝利”だったとのことでした。

駅伝に限らず、社会の変化のスピードは激しくって、われわれの仕事も“今までのやり方”にこだわるばかりでは、マーケットの支持を失い、時代に取り残されてしまいますから“転換”が必要だとよく言われます。先日も藤森郁男先輩から「仕事は悪くなってからだとやるべきことは決まってくるけれど、いい時に何をするか、何をしないかが大切だ。いい時を知ることが大切だ。どうだ？」と言われましたが、その通りです。

御多分に漏れず、我々冠婚葬祭の業界にも急激な変化が起きています。少子化、非婚化の中、婚姻件数に対する披露宴の実施率は50%。披露宴への招待人数は年々減少し、家族や親族だけで行う少人数婚も目立ってきました。マーケットはシュリンクしています。そんな中、既存の施設はダンピング合戦。全国展開する大手チェーンの式場がこの地域でも何社もM&Aの手法でマーケットを草刈り場にしている現状。豊かな経営資源を戦略的に地方に投下しながらシェアの獲得競争です。こんな環境下で、当社のような零細企業が生き残っていったら不思議です。幸いなことに今期当社は令和婚ブームと消費増税前の駆け込み受注の風に乗って過去最高数の挙式披露宴を承っておりますが、さすがにこうした逆境の下ではため息も出ます。

実のところ、環境の変化を感じて不安に感う自分。環境に紛動される自分がいます。足元の会社の姿を見て社員に対して不満を感じる自分もいます。未来を悲観する自分がいます。環境や人のせいにして逃げたくなる自分もいます。

今回のイタリア旅行はこうした自分の迷いの現実に対する突破のポイントを模索する旅となったのではないかと思います。

さて、日本時間では元旦の未明。ローマは大晦日の夕刻でした。サンピエトロ広場を後にした私たちは郊外へ向かってタクシーを走らせました。私共が所属する会のイタリアの総責任者にお会いするためです。

私たちは過去にドイツやパリを訪れては、昭和40年前後の安保闘争の時代に、若くして日本を離れ、海外で生活をしながら会の活動をリードしてきている中心者と懇談してきました。はじめは偶然の出会いでしたけれども、紹介を受けたりしながら次々と懇談していただく中で、それぞれの方が彼の地に居所を定めた経緯や激闘の人生を伺い、その純粹性に触発されながら襟を正すという経験に恵まれてまいりました。どなたも社会において明確な実績を認められてきた方々ばかりでしたが、今回もその出会いを求めたわけです。ドイツではライン川のほとりの施設を訪ねた後、ケルンでレンタカーを借りてアウトバーンをフォルクスワーゲンを暴走させました。途中トラブルもあって。フランクフルトまで3時間ちょっとの道のりを5時間もかかったのがいい思い出です。

ところで、我々はイタリア語はおろか英語もろくに話せません。まったく丸腰の旅行で、アポイントメントをとるまでの苦労話は割愛しますが、偶然が重なって幸いなことに総責任者のナカジマさんと一時間以上懇談できることになったのです。

ホテルから20分ほどで到着したローマ会館には、大晦日の夕刻だというのに大勢の職員やボランティアが働いておりました。彼は実に小さな身体の真っ白な白髪のおじいさんでした。あまりの小ささにあのローマ教皇とお会いした方とは思えません。声は細く優しく、突然現れた我々を特別扱いすることもなく、職員の皆さんとフラットに会話されていました。職員の皆さんにナカジマさんが発するすべてが激励の姿でした。そしてこんな話をしてくださいました。

ここは例会の席ですので、ナカジマさんのすべては語れませんが、付度しながらお聞きください。

私は1941年満州で生まれました。九州出身の父は国策企業「満州工作機械」の技術者で、神戸出身の母との間に姉と私と妹がいました。4才で終戦を迎える前にすでに家族で南下していたんですが途中で止められて、元

の町へ戻ったところへソ連軍が侵攻しました。父親は機械の接収に伴って技術者として連行され、母親が子供3人と逃避行。真冬、天蓋のない貨車で妹が亡くなったこと。食べるものがありませんでした。母は自分より子供に食べさせることを優先しましたが、あるときから覚悟があったようで、話こそしませんけれど、生きる力のある上の子を優先し、妹を犠牲にしたように思います。

帰国後は九州の父の実家で父の帰国を待ちましたが、戻らないので神戸の母の実家に身を寄せました。父は47年には帰国して製造業に勤めましたが、抑留中のことはなにも話しませんでした。1963年にイタリアへ渡って現在78才ですから、もう57年になりましょうか。色々ありますよね。でも楽しかった。私より2年ほど先にイタリアへ音楽留学したのは姉でした。姉に続いて私も、経営学を学ぶ留学生としてイタリアに留学してイタリアのメンバーとともに今日を迎えています。

イタリアの組織はアメリカで活躍した有名なミュージシャンがメンバーとしてフィレンツェにいて、彼を中心にフィレンツェで拡大しました。今もフィレンツェにはメンバーがたくさんいます。のちに彼はローマに転居したので、ローマでも広がりました。イタリアは若いメンバーが活発で、現時点でメンバーは11万人を上回りました。

イタリアは国民の80%がカトリック教徒です。政治は当てになりません。そんな中私達イタリアのメンバーは特に「宗教間対話」を大切にしてきました。その実績が、3年前イタリア政府と我々との間で交わした宗教協約「インターサ」、エスキベル博士との対談、日本の代表団のローマ教皇との謁見などに結実しています。我々イタリアのメンバーは、長い時間をかけてバチカンの教皇庁の中のイタリア共和国を管轄する部署であるCEIと信頼関係を深めてきました。そのうえで日本の本部は教皇庁本体との良い関係を結んでいます。

共和国政府と交わした「インターサ」には「1000分の8税」についての条項があります。納税の0.8%が宗教団体のために用いられる制度です。でも我々は、そのお金が「当該宗教の聖職者に与えられる権利」についての条文は削除しちゃいました・・・。

一時間たっても懇談は終わりません、それほど大事にしてくださるのです。三度暇の意を表した時、初めて「オフィスもごらんになりますか?」と言われて螺旋階段を上り2階に案内してくださりました。広いオフィスの窓

から見る大晦日の美しい夕焼けに浸りながら、帰途につきました。

単身、身寄りのないイタリアへ向かい、どこまでも人のために心労を尽くすナカジマさん。彼が軸となって拡大している幸福の輪。それを支える人々がこれまた人のために尽くす笑顔。どこまでも目の前の一人を大切にするナカジマさんとの懇談は、我々に大切なものを気づかせてくださいました。

2020年庚子は激動の中に新たな種子の成長を見出す年。島崎藤村が考案した「藤村いろは歌留多」に「独楽の澄む時、心棒の廻る時」があります。独楽は心棒を中心として高速回転することによって、静止しているかのように見えます。わたくしも激動の環境に紛動されることなく、人間中心という心棒を軸に、大切にすべき人を大切にしながら、次の時代へ引き継げるようにエネルギーの続く限り回転し続けようと思います。

◆今後の例会日程

1月17日	金	クラブフォーラム・IMについて
1月24日	金	年頭所感・諏訪市市長
1月31日	金	職場訪問例会『タケヤ味噌』